

八王子支部ニュース

No.13 2022/11/29 発行

Tel : 042(623)1141 Fax : 042(627)8741

E-mail : sensei@tokyoso-hachioji.com



HP



e-mail

八王子秋の総行動（対市予算要求）②

前号に引き続き、11月15日に行われた八王子市への教育関連予算要求の各担当課長の回答と支部のやりとりをお知らせします。市側は大日向指導課長、山野井教職員課長、北川・鴨狩統括指導主事、学校給食課、教育総務課、施設管理課など担当課長が出席しました。

⑤欠員問題（源田）

＜市側との主なやりとり 概略＞

- ・学校での休職者が出ているが、近年増えている。再任用で担任をしているが、個別対応が多いと感じる。少人数学級を都へ要望してほしい。
- ・A中の例 B中で育休に入った男性の欠員のところへ、A中で青年教員（担任もしている）が、3年の授業を受け持ち大変な思いをしている。欠員の補充を市教委でも探したのか。

統括指導主事（鴨狩）

- ・相談があり、ありとあらゆる手段で教員を探したが0でした。
- ・都教委の絶対数が足りないことは知っている。欠員の任用は副校長が講師名簿に登録されている方にあたり校長、市教委、都教委と手続きがあり、決まるまでに時間がかかる。

佐々木

- ・男性で育児休業を取る方が八王子でも出てきたので、欠員の補充は何とかなんてはならない。

②1スピーキングテストの受験使用中止と導入中止を都教委へ要請をあげてください。（Kさん）

統括指導主事（鴨狩）

- ・スピーキングテストは都教委の入試制度であるので、我々は粛々と進路指導をする立場である。市教委が市民の声を聴いて都に上げるといことはしません。そのように思っている方が上げてください。

②2学校給食の無償化を目指し、補助の増額など保護者負担軽減や地場産の活用を。（Tさん）

学校給食課長

- ・学校給食の無償化には15億円（試算）かかる。国の動向を見ながら、困っている方々には福祉政策に絡めて考えていきたい。
- ・地場産の活用はしていきたい。30.1%の活用率である。有機野菜使用は世の中の風潮である。学校給食でも進めていくと出ているが、学校給食で虫が1匹き入っただけでも大騒ぎになる。
- ・虫も食べるほどのおいしい野菜であるという証拠。有機野菜が手に入りやすい状況を作っていく、もっと有機野菜が出回れば学校給食にも取り入れやすくなる。

②3学校のトイレに生理用品の設置を（Iさん）

人権対策として、トイレトペーパーと同じようにしてほしい。

指導課長（大日向）

- ・養護教諭に依頼して 中学校1校にアンケート実施し検証中。 ～裏面につづく～
（内容 生理用品を使用した しない なぜ使用しましたか 理由 ）

- ・生理用品が買えないくらい困っている場合はその裏にもっと大きな問題が隠れている。ネグレクトやヤングケアラーや虐待などが見つけやすい。養護教諭からも、困ったときは保健室に取りにおいでと指導している。

④追加 特別支援教室の指導期間を1年とせず必要に応じてということを確認しました。



東京教研の報告

全大会講演「子どもの尊さと子ども期の保障」

10月28日(土) 増山 均氏(早稲田大学名誉教授)

今学校に「ゆっくりしていい」「いっぱい遊んでいい」「失敗してもいい」「自分たちで決めていい」という雰囲気はなく、大人も子どもも忙しく追い立てられている。

「遊び」は子どもの主食です。「遊び」と「遊ばせる」は違う。「遊び」はたっぷりとした時間の中で、子どもたちが自由に遊ぶこと。「遊ばせる」は制約の中で一定時間遊ばせること。子どもには「遊び」が必要。

子どもには6つの権利がある

- ①生存する権利
- ②生活する権利
- ③学習する権利
- ④休息・余暇・遊びなど文化的な生活をする権利
- ⑤失敗する権利と更生する権利
- ⑥自治と参加の権利

学校に必要な考え方……6つ

- ①「教育」学校がすべてではない
- ②「養育」食事や睡眠
- ③「療育」すべての子に必要なこと
- ④「遊育」遊びによって育つ
- ⑤「甦育」失敗から学ぶ
- ⑥「治育」自分たちで考え動く

憲法と子ども権利条約だけでなく児童憲章にも、もっと光を当ててほしい。母子手帳にも乗っている。児童憲章が社会の中でもっと活かされていくように力を注ぐことが必要。

特別分科会(フィールドワーク) 報告

◎玉川上水を学ぶ～羽村の堰から福生までを歩く

11月13日、息子と二人で行ってきました。雨の予報で晴れて良かったです。ブラタモリより詳しく深いお話で勉強しました。息子は途中から疲れた、疲れたと何度も言っていますが、普段から歩かなさすぎだと思います。(参加者より)

◎高尾山登山 11月27日(日)

～高尾の自然や歴史に触れながら～



がんばっている皆さんと一緒に歩けたことがうれしかったです。思い入れのある高尾山なのでおしゃべりをしすぎたかも。気候危機をはじめとする環境問題は、戦争、食料、人権の問題につながり、今や避けては通れない。何とか教育現場で身近なSDGsから根源にも目を向けた学びになるよう工夫してほしいと思います。できる限り応援します。どうぞ現場で子どもたちと向き合って奮闘されている皆さん、お体に気を付けて頑張ってください。(講師 奥田さが子さん)